

一般社団法人 日本生態学会

2021 年度 第 2 回通常理事会

1. 日時：2021 年 7 月 17 日（土）13:00～17:10
2. 場所：オンライン会議（zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）
（理事）湯本貴和、宮下直、大塚俊之、佐々木雄大、本庄三恵、
中川弥智子、久米篤、木村恵、内海俊介、東樹宏和、
中野伸一、吉田丈人、西廣淳、辻和希、鏡味麻衣子、
宮竹貴久、村岡裕由、和田直也
 - ・監事：齊藤隆、永松大
 - ・オブザーバー：陶山佳久、永光輝義、小池文人、高橋佑磨
 - ・事務局：鈴木晶子、俵積田美也子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 18 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い湯本貴和会長を議長として議事を進行了。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、湯本貴和会長、齊藤隆監事、永松大監事とし、議事録作成者は大塚俊之専務理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて大塚専務理事より日本学術振興会より令和 3 年度科研費（国際情報発信強化 A）の内定通知があった（H30 年度より 5 年間交付、令和 3 年度 12,600,000 円）（4 月 1 日）こと、日本学術振興会より令和 3 年度科研費（公開講演会）について不採択通知があった（4 月 1 日）こと、琵琶湖賞運営委員会により第 21 回生態学琵琶湖賞受賞者として源利文氏と吉田丈人氏の受賞が決定した（4 月 16 日）こと、事務局職員 1 名を雇用した（6 月 1 日）こと等、庶務 15 件会計 3 件の報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料 2 に基づいて陶山編集長より Copy Editor 2 名を雇用したこと、2020 年最新の Impact factor は好調なものの、分野別ランキングにおいては 166 誌中 112 位であった等の報告があった。
3. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料 3 に基づいて永光編集長より発行・編集状況の報告があった。

4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて小池編集長より 2021 年前半期の編集状況について報告があった。

5. 出版状況報告

- ・ 資料 5 に基づいて久米出版担当理事より生態学会 3 英文誌の編集出版について報告があった。
- ・ 氏名表記において性別を特定しない“Mx”が世界的に採用されてきていること、出版後の論文著者氏名の変更が可能になりつつあるなど、多様性尊重への対応を柔軟に行う必要があることが報告された。
- ・ 国際的に学会誌の出版状況が大きく変化しており、OA 出版を含め学会誌の運営方法の検討や科研費申請のための WG 設置準備をすすめるとの報告があった。

6. 大会報告

- ・ 資料 6 に基づいて大塚専務理事より ESJ68 会計報告と ESJ69 大会運営検討タスクフォースでの検討結果として前半をオンライン大会（主に口頭発表とポスター発表）、後半をオンサイトとオンラインのハイブリッド開催（主にシンポジウムと自由集会）で進める意向が報告された。
- ・ つづけて高橋大会企画委員長より資料 6 に基づいて、ESJ69 開催準備状況報告があった。
- ・ 託児所については現地には設けずに外部施設の情報共有を検討していること、託児費の利用者負担について引き続き検討することが報告された。

7. 各種委員会報告（将来計画、キャリア支援）

<将来計画>

- ・ 資料に基づいて辻理事より ESJ68 にて開催の「今日はモアイに行こう」報告があった。若手とシニア・先輩の交流や議論の場を提供し、メンター・メンティー両方からとても好意的に受け止められたこと、少人数が適切であり雑談の場が大きな意義を持つことが確認できたことから今後も継続予定であることが報告された。

<キャリア支援>

- ・ 資料 7 に基づいて木村理事より女性研究者等へのキャリア支援として研

究賞への申請支援を行ったところ、小林千里会員が OM 賞を受賞されたこと、また「女子中高夏の学校」イベント実習講師として参加されることが報告された。

- ・ 会員動向の解析、和文誌の特集として受理されたこと、ESJ69にて大会登録時の情報から、年代、発表の属性等を解析し調査したいとの提案があった。
- ・ 男女共同参画学協会連絡会の次期幹事学会としての業務が10月からスタートの予定のため、幹事学会 WG の立ち上げの検討を進めているとの報告があった。

8. EAFES 報告

- ・ 中野理事より EAFES9 (フフホト) が 2021 年 7 月 10~13 日に開催され、450 名ほどの参加があり中国在住者以外はオンライン (Zoom) 参加であったと報告された。
- ・ 今回から EAFES 会長が日本生態学会長から中国生態学会長に交代し事務局局長は中野理事が継投されること、次回は 2023 年 7 月韓国・済州島にて開催予定との報告があった。

9. INTECOL 運営状況について

- ・ 資料 8 に基づいて村岡理事より 2022 年開催予定のジュネーブ大会に向け、運営機能や会計報告の正常化及び事務局設置等の立て直しを図り、新たな組織運営を行うことが報告された。

10. 国際生物科学連合 (IUBS) 日本大会への協力依頼

- ・ 資料 9 に基づいて吉田理事より 2023 年 3 月 10~12 日開催予定の IUBS 日本大会 (中央大学・後楽園キャンパス) に生態学会からもシンポジウムを提案していただきたいとの報告があった。

11. 日本生態学会ウェブサーバーに関する課題

- ・ 資料 10 に基づいて村岡理事より学会サーバの保守費用を抑えつつセキュリティリスクを低減するため、ESJ69 ウェブサイトにおいては外部のレンタルサーバー上に設置すること、大会終了後にサイト情報を html 化して学会サーバに残す方向が報告された。
- ・ 今後 Wiki サービスを停止すること、Wiki に残るデータは Google Workspace へ移管する方向で検討していくことが報告された。

12. その他

- ・ 西廣理事より 12 月に提出した生物季節観測に関する要望について、その後、気象庁・環境省と連携し一般の方にも参加を募る生物季節観測を展開していくことになったこと、70 人近い市民・市民団体・企業の方が参加するネットワークができつつあり要望書が生かされているとの報告があった。

審議事項

第 1 号議案 大会について

- ・ 資料 6 に基づいて大塚専務理事・高橋大会企画委員長から説明があり、ESJ69 について前半を完全オンライン、後半をハイブリッド型（オンライン、オンサイトの双方参加可能）とし、会期を 2022 年 3 月 14 日より 19 日とすることが全会一致で承認された。
- ・ 大会参加費については早期割引で一般 13,000 円・学生 5,000 円、通常料金で一般 15,000 円・学生 6,000 円とする案が全会一致で承認された。（理事会の意見を受けて最終的には実行委員会にて参加費を決定する。）

第 2 号議案 Jeconet 移行計画及び管理運営方針について

- ・ 資料 11 に基づき村岡理事より Jeconet について、今後は生態学会の情報担当理事及び情報交流支援委員会が中心となり管理運営を行うこと、Google Workspace を活用して新 JeconetML を新設しシステム化を図ること、旧 Jeconet 会員情報は移管せず、希望者が新たに参加登録をすること、新システム構築にかかる費用について説明があり、全会一致で承認された。
- ・ 参加ガイドラインについては引き続き検討していく。

第 3 号議案 委員・タスクフォースメンバーの承認について

（ER 編集委員会、選挙管理委員会、大会将来像検討 TF）

- ・ 資料 2 に基づいて陶山 ER 編集長より ER 編集委員 1 名の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 12 に基づいて湯本会長より選挙管理委員候補者および大会将来像検討タスクフォースメンバー候補者の提案があり、全会一致で承認された。

第 4 号議案 保全誌編集委員会主催 公開フォーラム開催について

- ・ 資料 4 に基づいて小池保全誌編集長よりフォーラム開催の提案があり、全会一致で承認された。
- ・ 開催にあたって関連学協会や企業への参加の働きかけや、フォーラムが今後の意見交換のキックオフとなるように討論の工夫をするとよいのではないかという提案があった。

第 5 号議案 学会データベースに関する議論・WG の提案

- ・ 資料 13 に基づいて内海理事より説明があり、生態学会としてデータベースの考え方と方針を検討する「データベース検討 WG」の設置が全会一致で承認された。

その他

1. 公開講演会への科研費申請について
 - ・ 資料 14 に基づいて湯本会長より大会期間中に実施する公開講演会への科研費申請状況について説明があり、最近の科研費採択状況や採択されている課題の内容を踏まえて、科研費申請を行うかどうかは大会実行委員会に委ねることになった。
 - ・ 科研費の他にも公開講演会の内容で申請できる助成への応募も提案していくことになった。
2. これまで設置されてきた WG、TF 記録を整理していくことになった。また、WG 設置のフォーマットを検討していくことになった。

閉会：以上の議事を終え、17 時 10 分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2021 年 7 月 17 日

会 長 ： 湯本 貴和 ㊟

監 事 ： 齊藤 隆 ㊟

永松 大 ㊟